

令和3年度 第1回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日時	令和3年6月9日(水) 13:30～
開催場所	横浜市役所会議室 ほか【WEB会議形式】
出席者	(委員) 小宮輝之委員長、浅井紀代子委員、齋藤毅憲委員、佐渡友陽一委員、間曾さちこ委員
開催形態	非公開
議 題	1 令和2年度第3回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録の確認 2 令和2年度事業報告 3 中間評価の実施方法について 4 その他

1 令和2年度第3回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録の確認

- ・承認

2 令和2年度事業報告書の説明

- ・コロナ禍にありながら非常に頑張っているという印象だ。様々な試みでよくやっていると評価したい。
- ・コロナ禍で利用者が減るのは自然の流れだが同業者の動向は把握しているか。
→現在収集中のため、今後報告する。
- ・文化施設の感染拡大防止助成金はどのくらいの金額か。
→100万円弱である。
- ・野毛山動物園への寄付は金額も大きく非常にありがたいが、どのような取り扱いか。
→横浜市の基金とは異なり、指定管理者で受取ったもののため指定管理者において運用する。
- ・クラウドファンディングなどの方法もよいが、周年記念として資金を集めることは寄附する方の想いも生かせる。
- ・野毛山への寄付は有効に活用し実績を示して次につながるよう計画的に執行してほしい。
- ・年間パスポートについては、潜在的支援者となりうるリピーター獲得という目的が掲げられているが、この点に関する事務局の評価はいかがか。
→やりとりをしていく中で大口の支援をいただける方が増えてくることもあるため、繋がりが必要と考えている。現状は成果がでていないが引き続き続けていきたい。
- ・年間パスポートは連絡先が分からないとこちらからの働きかけも難しく、次に繋がらないことが多い。目的としては正しいため、手段がうまく機能しているか検証し有効に活用できる仕組みにしてほしい。
- ・アニマルペアレントについては金額ベースで昨年、一昨年と大変伸びていてその前から比べると倍近くの実績である。事業としては手応えがある形に見えるが、どのように評価しているか。また、友の会も同様だが、コロナ禍で会う機会が減り相手の反応が拾いにくい状況である。そのため、声をきく仕組みを作っておかないと、なんで増えているのか分からないということになり次に繋がらない。そのため状況を確認するところから実施してほしい。

→次回報告する。

- ・入園者数の目標設定は適正か。
- ・コロナ禍の非常に厳しい環境の中、入園者数目標を下方修正してもよいと思う。その中でどのように努力するのか考えることが必要である。

→指定管理者との10年間の協定において設定した目標値があり、それに関して絶対値としてどうであったかを把握する必要がある、というのが現在の考え方である。ただし、評価については開園日数や人数制限など様々な状況をふまえ、きめ細かく評価ができる方法を事務局としても考える必要があると認識している。

- ・コロナウィルス感染拡大防止のための閉園はどのような権限で実施したか。また閉園に対する指定管理料などについて、横浜市としてはどのような対応を行ったのか。

→横浜市では他にも指定管理制度を公共施設に導入しているため、対応については本市全体で決定して指定管理者へ要請した。費用については過去3ヶ年の実績に基づき閉園により免れた経費やかかった経費を差し引き、指定管理料を補填した。

- ・収支についてショップやレストランの扱いはどのようにになっているか。

→園全体が閉園するため、その部分の経費も含めて指定管理料として本市が指定管理者に一部補填するという考え方をとっている。そのうえで指定管理者とテナントとなっている民間事業者が補填金額の協議を行い、事業者の損失も一部補填できるよう調整をした。

- ・しっかりとした対応ができていると感じた。

- ・教育関係について、オンライン化などの改善成果をどう捉えているか。どんな反応があったか、教育の質があがったかという評価が必要である。

→次回、指定管理者より反応や検証内容について報告する。

- ・ホームページの閲覧数が増えているのはある意味当然で、例えば東京都は動物園を閉めているから横浜市は開園しているか調べる人もいる。そのようなことも含めて、閲覧数が増えて良かったと判断することが妥当か慎重に見てほしい。

- ・YouTubeのチャンネル登録数について横浜は少ないと感じる。もっと気軽に応援できる仕組みを作り、ファンを増やすことが今は一番大事だと思う。例えば他都市ではAmazonの欲しいものリストに動物園が欲しいものを並べ、世界中でどこからでも支援できるようになっている。今後何か考えていくことも必要である。

- ・SNSの活用等において他都市の事例では、動物福祉はアピールできているものの保全について見えてこないことがある。横浜の場合は、保全についてもっと出せると思うのできちんと軸を立てアピールしながら共感してもらえらる関係を作る必要がある。

- ・遺贈寄附も含めた寄附については、前提として裾野を広げることが必要なのでドナーピラミッドをどう作るか、相手との関係性を整えていくという長期戦略が求められる。

・これからは遺贈も増えてくるのではないかと感じている。
・プレスリリース件数について、横浜はこれだけの規模で動物園を運営しており自主的に確実に増やせる部分であるため、もう少し力を入れたほうがよい。

・アンケートをWebで行ったことは大変結構なことである。しかし、自分たちの弱点を把握しそれを強化していくことが見えるアンケートを計画してほしい。

・調査研究について、コロナ禍において月1回の飼育研究会が開催できず発表の件数が減ったことは残念であるが仕方がない。しかし、動物園の飼育現場は自主的な努力を共有しお互いに認め合うプロセスが大切であると考えられる。発表の場がなくなっても研究内容が蓄積されているならよいが、蓄積すらできていないとしたら残念である。現在どのように努力し、それを拾い上げる仕組みが構築されているかを確認したい。
→昨年は、飼育の現場も一日交代の勤務時期があり研究的なことが進まない事実があった。実態については再度確認する。

・指定管理業務を請け負っている組織の責任ある立場の人の中に動物の専門家はいるか。
→組織のトップは動物園の専門というよりは経営的な観点で業務に就いている人である。

3 中間評価の実施方法

・（今回の評価項目について）目標の達成状況は本質的にはエンドレスだと考えている。例えば「成果を発信する」との目標に対し、成果を発信したから達成ということではない。それを発信した上で例えば保全を実現するためにできることを行い、そのために種の保存も環境教育も実施するという話だと思う。そう考えると中間評価において何かを達成すれば満点という評価は妥当ではない。よって中間評価において文章による評価は妥当性が高い。

4 その他

・事業評価の評価方法案見直しについて委員よりいただいた意見を事務局でまとめ提示する。

・今後の日程

7月28日（水）午後 令和2年度事業評価

9月8日（水）午後 中間評価

配布資料	資料1	令和2年度第3回指定管理者選定評価委員会会議録案
	資料2	令和2年度事業報告
	資料3	横浜市動物園等の中間評価実施方法案